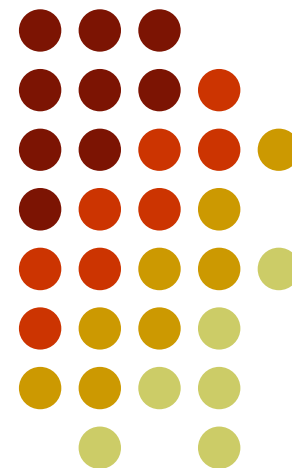


食品リスク論

2003年3月12日
社会技術研究システム専門研究員
神里達博





食品リスク問題研究の方針

- **何が重要な問題なのかを明示化**

全体的な視野の確保 (科学的、技術的、制度的、社会的側面からの問題の分析)

- **問題を解決する方向性を提言**

- 1) 具体的な事件を論評し、リスクリテラシー向上に寄与
- 2) 問題解決方法の妥当性、有効性の研究(c.f.トレーサビリティ、食品安全委員会)、制度の提案

「社会技術」的？

近年の食品問題の経緯と評価(1)

ーBSE



BSE発生事例

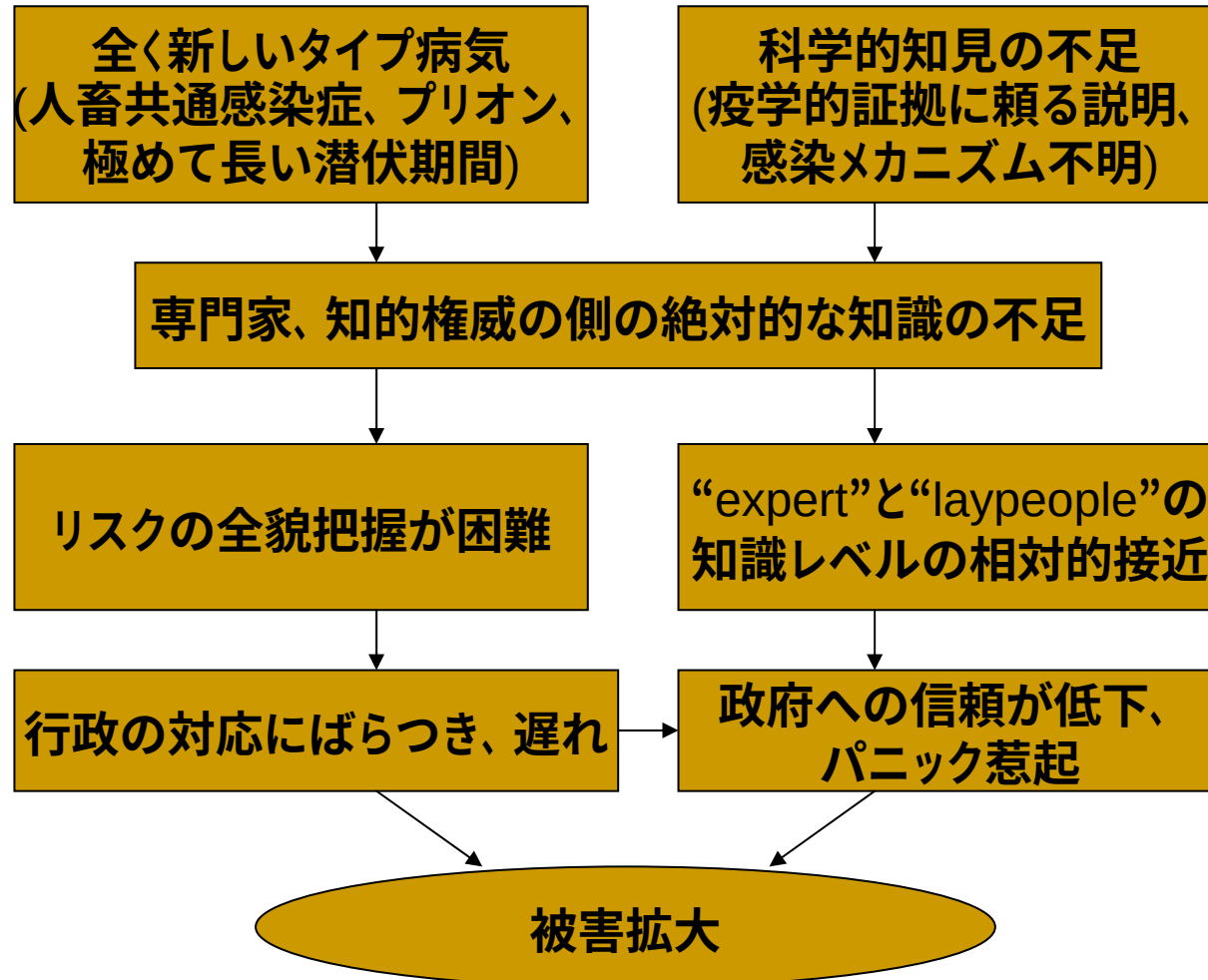
(高齢ホルスタインを中心に計8頭)

- 2001年9月10日、国内初BSE
発生直後は混乱(肉骨粉の扱い／EUリスク
評価拒絶問題)
1ヶ月ほどで食品衛生上の検査態勢完成
(全頭検査)
食品安全委員会(15年度発足予定)、牛のト
レーサビリティ法制化(今国会)
- 英国が10年かかった措置を1ヶ月で達成
約1年で牛肉価格・消費は概ね回復
- 未だに国内への進入経路、潜在的拡大状況
不明(c.f.死亡牛検査の遅れ)
- 欧州に比べてBSEそのもののパニックは短期
間であった

年月日		地域
2001年	9月10日	千葉県
2001年	11月21日	北海道
2001年	11月30日	群馬
2002年	5月11日	北海道
2002年	8月23日	神奈川
2003年	1月19日	和歌山
2003年	1月23日	北海道
2003年	2月8日	神奈川(判定留保)



BSEの科学社会学的見取り図



欧州のケースも
ほぼ類似した状況

近年の食品問題の経緯(2)



一 問題の焦点は別の方向へ

- 2002年1月 雪印牛肉偽装(BSE対策補助金詐取)事件発覚、以降、スターゼン、日本ハム等で同様の詐取
→ここから事件の社会的関心が転換、トレーサビリティの重要性の認識が増す契機
→BSE補助金詐取以外でも、牡蠣、豚肉、茶などで散発的に偽装表示問題発覚
- 5月協和香料化学無認可香料使用事件発覚
- 6月中国産冷凍ホウレンソウ残留農薬問題等散発
- 7月無登録農薬使用発覚(ダイホルタン、プリクトラン)



これら一連の事件をどう理解するか？

BSEとの関係は？



BSE以降に現れた問題のタイプ

「安全」を確保することで解決する問題＝「安全的問題」

「安心」を確保することで解決する問題＝「安心的問題」

1) 食肉偽装

低リスク／安心的問題

コンプライアンス、業界の体質

2) 無認可香料

低リスク／安心的問題

制度不備、WTOハーモナイゼーション

3) ホウレンソウ、農薬

中リスク／安全的問題

輸入食品の増加、低食糧自給率では慢性的な問題

c.f. BSEは？ 日本では最近「安心的問題」と捉えられているが、科学的な不確実性が大きく、リスク不明／安全的問題では？

リスク情報不足下で事件が発生した際の 社会的なアジェンダセッティングの構造

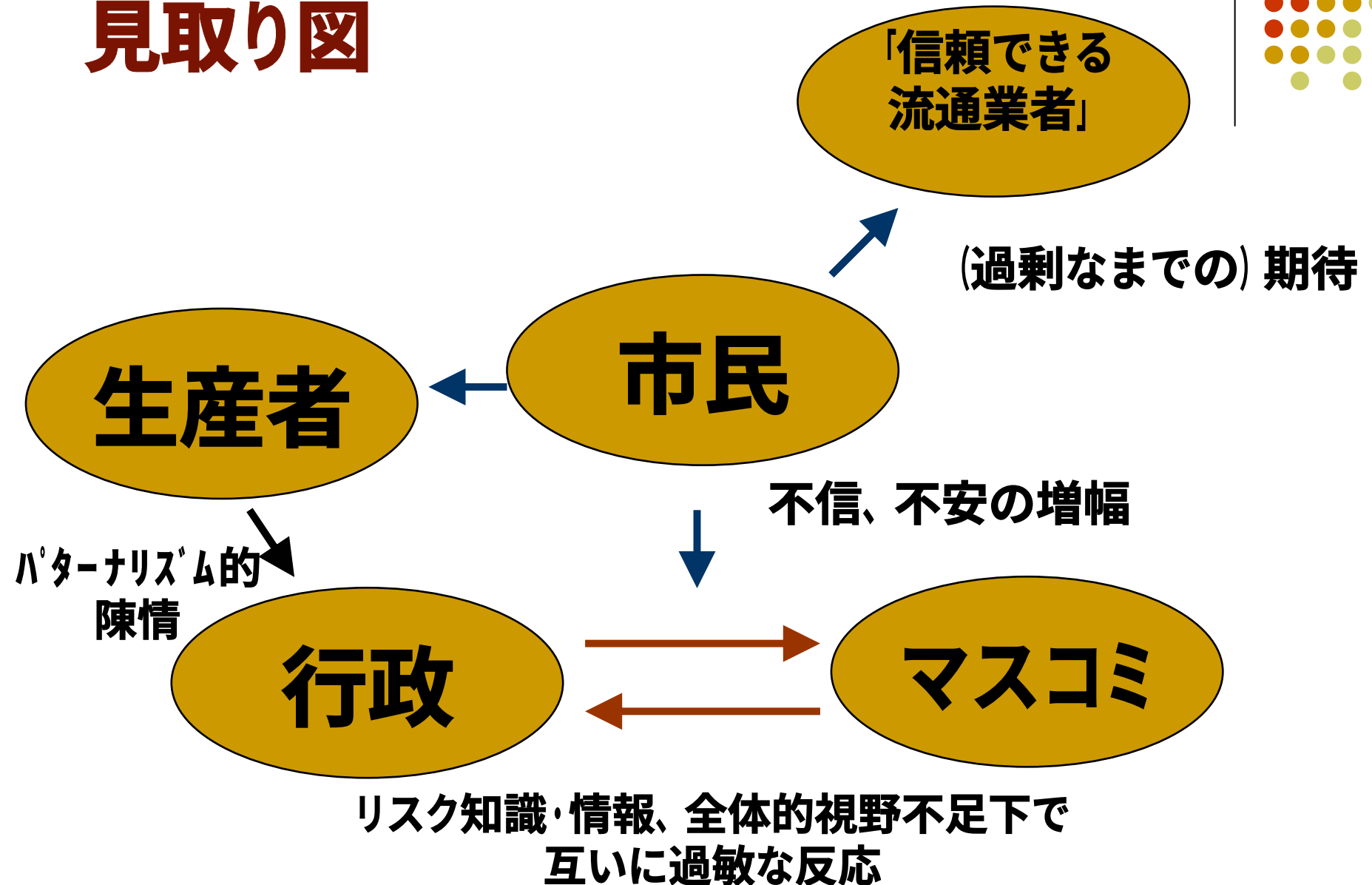


1. トリガーとなる社会的に重大且つ知識・情報不足の事件が(BSEなど)
発生＝社会的注目ジャンルの決定(＝「食」)
2. マスコミによる報道(少ない情報が繰り返し乱反射)
→市民の不安が増大(背景には近年の「食」への不安の高まり)
3. 行政(政治家)には、マスコミから間接的に市民の不安状況が伝わり、また生産者側からは陳情が
→しばしば知識・情報の体制不足で不適切な対応(c.f.「牛肉試食パフォーマンス」)
4. マスコミは更に行政の対応や、問題点を追求
→同様に知識的基盤が弱いため、問題の掘り下げ方の方向性が画一的(c.f.肉骨粉)、あるいは同じジャンルでリスクの性質がかなり異なる問題を同列に報道しがち(c.f.ハウレンソウ、農薬など)
5. 報道の爆発で、行政も市民もより同ジャンルの問題(＝「食」)に注目せざるを得なくなる→2,3,にループし、更なる報道、行政の対応を生む

**ループがおきる前に、適切で正確な知識・情報を
各セクター(行政、マスコミ、市民)が共有することが重要**



見取り図





如何なる仕組みが必要か？

- 1) 予め、科学的、技術的、制度的、社会的側面から分析
を行っておく
→大学、NPO、公的研究所、食品安全委員会
- 2) 行政、生産者のリスク管理体制の充実
→安心的問題(風評被害等)と安全的問題(科学的リスク)を正確に峻別し、両者と同時に戦う体制が必要
→食品衛生委員会、トレーサビリティの役割大
- 3) マスコミ、市民のリスク・リテラシー向上
→ジャーナリストだけでは無理、研究者がアカデミックサークルに閉じることなく情報を社会的に発信
→トレーサビリティの合理的かつ総合的確保

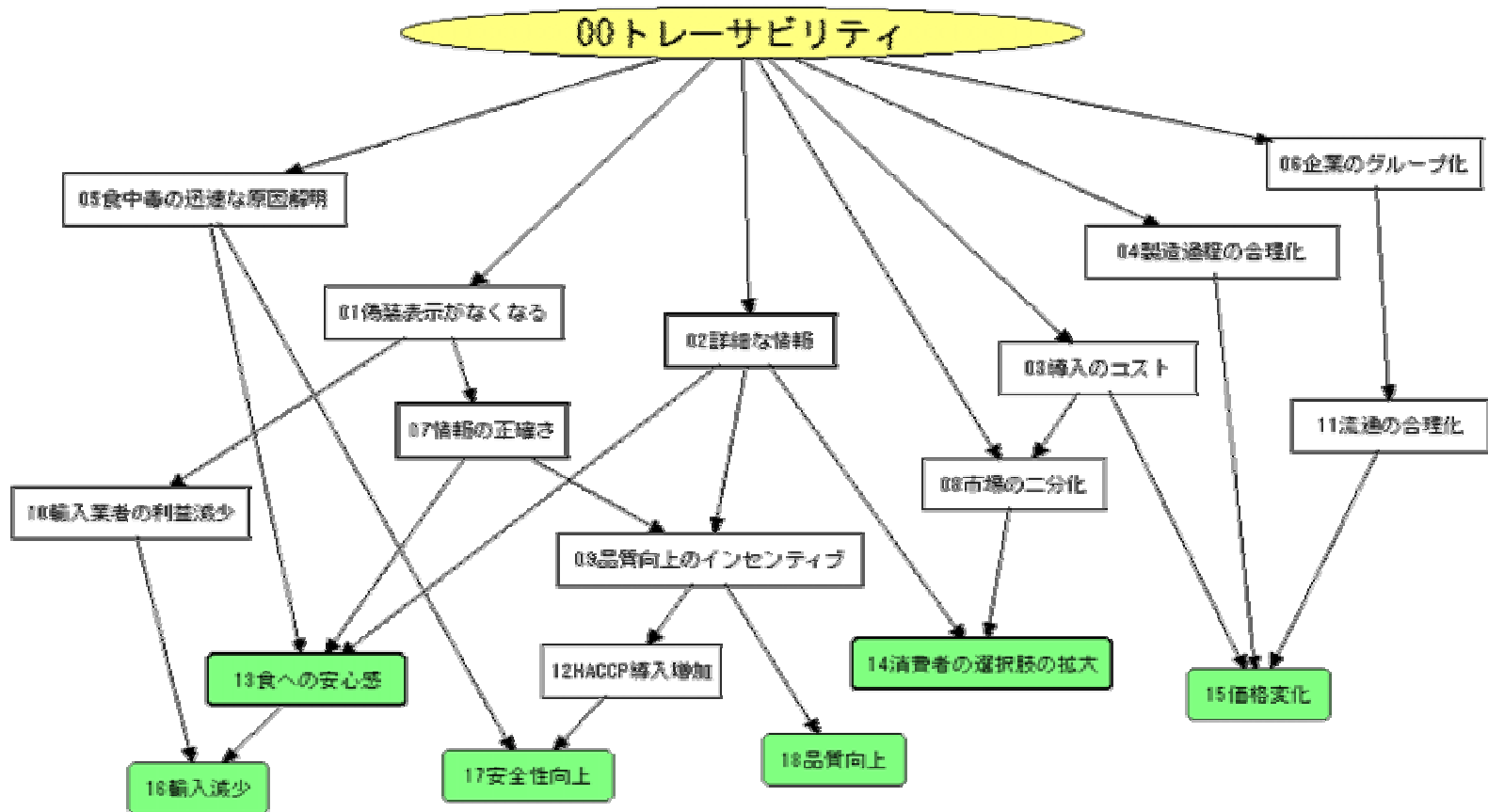
社会的リスク・リテラシー向上への 寄与例



- 「食に信頼を取り戻すトレーサビリティ」朝日新聞社「論座」、7月号(2002)
- 「メーカー相互の監視不足 原料提示の仕組み必要」(無認可香料問題、インタビュー)、朝日新聞紙面、6月5日朝刊(2002)
- 「ENVIRONMENT／The issue of food safety」(「論座」記事の抄訳)、Views from Japan、Foreign Press Center、7月号(2002)
「Restoring trust in food needs traceability」
- <http://www.japantoday.com/gidx/comment206.html>、Japan Today
(英語圏向けの、日本に関する総合的なポータルサイト)「Japanese Consumers rush to embrace traceability」
- Food Traceability Report、CRC Press (Washington DC)、8月号(2002)
- 「食の安全、専門家に聞く」(「焦点！BSE残された課題：下」、インタビュー)、朝日新聞紙面、朝日新聞社、9月6日朝刊(2002)

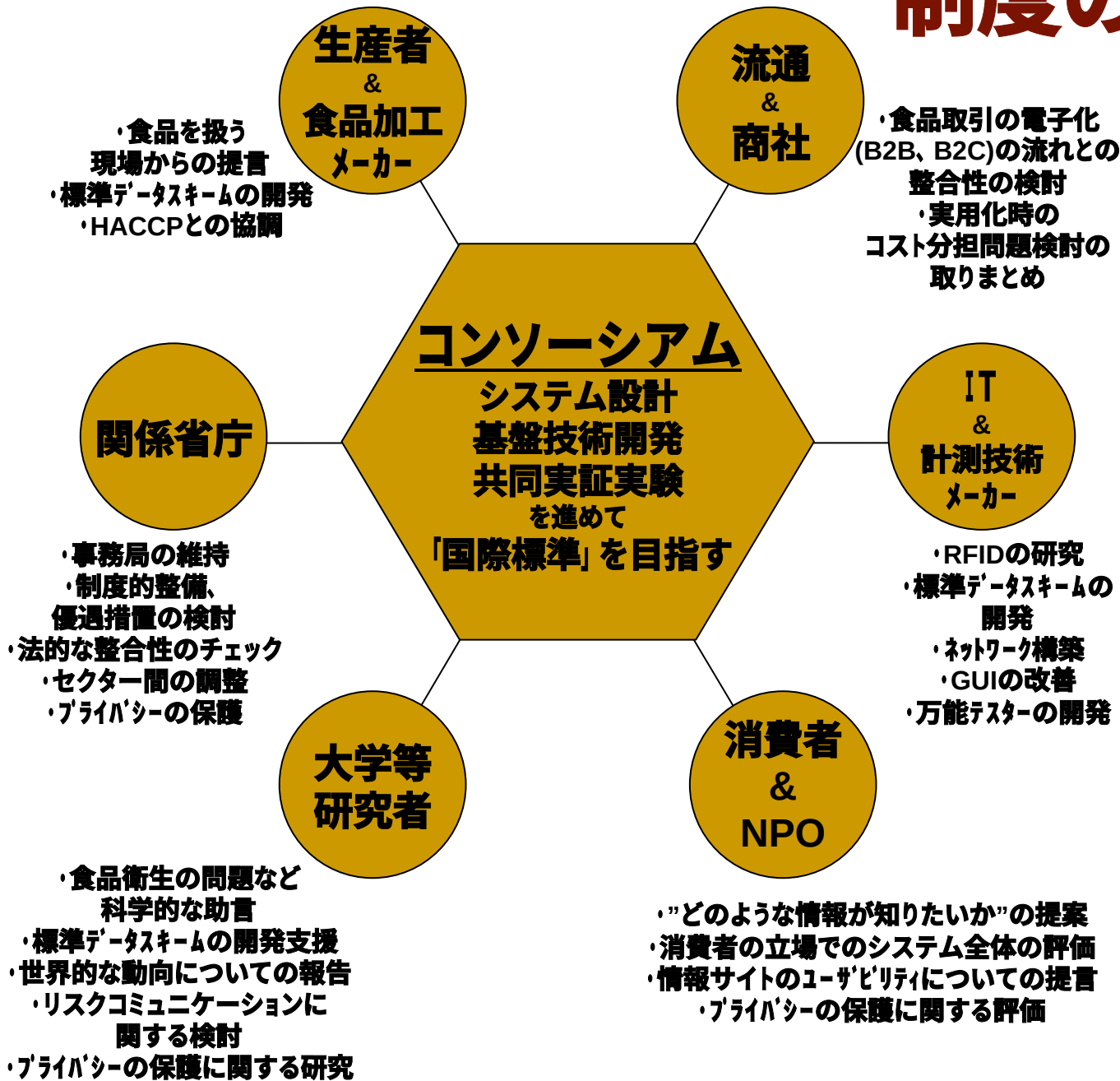
制度の評価

トレーサビリティの社会的影響予測(暫定版)



※2003年度社会技術研究論文集に投稿予定

制度の提案



寄稿

- 食の履歴システムの可能性」(『日本経済新聞／時論』、日本経済新聞社、12月21日朝刊(2002))
- 「総合的なトレーサビリティ・システムに向けた標準規格・基盤技術」(『動け！日本』プロジェクトへの寄稿、同報告書は2002年3月日経BPより出版予定)

今後の社会的な課題(1)

一食品問題解決の難しさ



- **食品パニックが起きやすい背景**
 - 生産・流通が多様
 - 業界のインテグレート
 - 商品選択の意思決定は一般消費者個人
 - 適切な情報を個人の意思に基づいて得る権利と基盤＝
トレーサビリティの確保が重要
 - 目下、我が国では食品は代替容易な商品
 - 食の安全保障意識の啓蒙、「食育」
 - “リスクゼロは不可能”という認識は(一般に希薄だが)「食」では特に希薄
 - リスク・センス受容への取り組み
- **一方で、グローバル化などの影響で、真に危険な問題(量、質両方の側面で)は増加する可能性大**

今後の社会的な課題(2)

ー真に重大な「食品リスク」とは？



- BSE以降の一連の食品事件はどれも特殊なものではなく、従来から存在しながら放置されてきたものが表に出たもの
従って別の食品でも常にパニックが起きる可能性がある
 - 上記の問題がマスコミを賑わす中、一方で、より危険性が高いものが放置されていないか？
 - 1) 人獣共通感染症の食を通じた拡散
エボラ、エイズ、西ナイル、インフルエンザ等が新興感染症として多発←グローバル化した世界状況
 - 2) 食糧輸入の不安定化
質的な問題に目を奪われすぎた結果、量の確保に失敗する可能性←911テロ以降の流動化した世界状況
- = 「BSE日本上陸」から真に我々が学ぶべきことであろう



今後の研究上の展望

- 引き続き、現代社会における「リスク」、特に食品リスクに関するより本質的な検討
- それらをふまえた上での政策・モデルの提案
- 「食品安全委員会」の制度的評価研究
- トレーサビリティの社会的影響に関する調査・分析
→生産流通などに対するインタビューを継続中
これらをアカデミック、ジャーナリズムの境界にとらわれることなく発表していく予定

以上